

## 令和6年度「IRビジネスセミナー」(第1回) 質疑応答要旨

(質問者1)

素晴らしく熱いプレゼン、今日はありがとうございました。大阪の観光でいくと、看板っていう部分が、結構大事な部分になるのかなというところなんですけど、景観法とか屋外広告物の観点での話は、今日あんまり出てこなかったの、そのあたりについて解説というか、お願いできればと思うんですけども。

(回答：講師)

景観は、まず法律と条例で規制されているところもあるが、景観をさわるのが難しい場所が結構あると思います。例えば、高層ビルがあって、そういうところの景観は、なかなかさわれない。

景観は、その都市の評価を決める重要なポイントですので、例えば通天閣とか、昔ながらのまち並みが残っているところは、例えば、もっと電線の地中化をすとか、さわれるところはさわっていった方がいいところもあると思っています。

大阪は、歴史的建造物が結構多いんですね。建物など、歩いて楽しむというところも大阪のいいところかなと思っています。商店街とか、官民を挙げて、もう一度、大阪の景観について、しっかり議論した方がいいのかなっていう感じがします。

例えば、湯布院とか高山では、景観を崩してしまうと観光客数に響くという危機感を持っているので、高さや色など、条例で規制しているんですね。ただ大阪は、国際観光に積極的に取り組みだしたのは、多分、この15年ぐらいなんですよ。歴史がまだ浅いんですね。そういう意味で言うと、今、おっしゃったように、パリオリンピックを見ているとわかりますでしょ。昔の石畳の景観を残していますでしょう。そういう議論を、今、しておかないといけないのかなと思います。

開発が進む一方で、古き良きまち並みも残すという視点も必要だと思います。先ほど、「緑化」のところで、少しその話に触れたんですが、もう少し前に出すべきポイントだったかもしれません。ぜひ景観とか緑とか、まちに住んでいる人にとって良いまちにしないとイケないのですね。

(質問者2)

今日はありがとうございました。本当にわかりやすい説明で、また資料も本当に丁寧に作っていただいたので、私、一般人なんですけども、わかりやすくよかったです。

その中で、万博があってIRがあるっていう、非常にいい機会があるわけなんですけども、万博に投資したものをIRで、考えたらいろいろと、そこで投資したものを活用できる部分っていうのはたくさんあるように思うんですが、なかなか私達は、一から作るよりも、万博をやったおかげで、IRはこれだけ投資が少なくて済んだとか、次に繋がったとか、そういうものが、もっとわかりやすく生活する者に伝わらないなと思っているところなんです。

その中で、IRで一つ、アリーナですかね、先ほど見させてもらったらシアターが3500席ですか。それが何か小さい気がして、世界に名だたるIRをつくらうと思っているのに。みんなが何万と集えるようなアリーナっていうのが、私の今までの外国のIRのイメージでしたから、ちょっと残念だなと思っています。若い世代が何をつくって欲しいかと言うと、多分、アリーナを作ってほしいという市民・府民の声も多いんじゃないかなと思っていますが、そこは、これから何とかなっていくものなんでしょうか。

(回答：講師)

今おっしゃったことは、もつともで、今の世界の大きい興行では、2万人以上収容できるアリーナがないと日本には来ないです。今の日本にあるアリーナ自体が小さいのは事実なんですね。

今回、残念ながらIRの施設の中にはアリーナはないです。ないですが、今後、吹田のアリーナとか、また、大阪城東部にもアリーナをつくるという構想もあります。

ご質問にあったとおり、私は、アリーナは必要だと思います。どのような形になるかは別にして。大阪城ホールは3年先まで満員らしいんですね。大阪でコンサートをやろうとしても取れないと。京セラドームとか長居スタジアムを使ってやっていますね。でも本当は、大阪城ホールが取れば一番いいんでしょうね。

そのような施設が足りないっていうのは、非常に課題です。しかも、大きい規模のアリーナというのは、これは何も、IR施設にとどまらず、大阪の今後のアリーナ施設のあり方という視点から、ちょっと議論しないといけないテーマかなと思っています。

私も実際、この間もK-POPのグループを初めて見たんですけどね。彼女たちが来たいと言ったら、やっぱりアリーナになるんですね。長居だったら雨が降るなどのリスクがあるんですね。京セラドームだとどうしても客席が遠くなってしまう。やっぱりそういう意味では大型で質の高いアリーナは長い目で見たら必要なんですね。

私は、IR施設ということにとどまらず、大阪の今後の文化エンターテイメント施設のあるべき姿という中で、その必要性は肌で感じております。

残念ながら、このIR施設の中には、アリーナと呼べるような機能はないんですね。これからどうしていくかってことは、夢洲2期もありますし、他のところでもアリーナをつくる話があるので、トータルで考えるべきです。プロ野球は、京セラドームや甲子園球場もあるので、年間多くの観客を集客できます。ただし、文化エンターテイメントのイベントに係るアリーナのキャパシティは東京に比べるとまだまだ弱いのが現状です。

(質問者3)

講師のお話で、新しい多様な職種、サービス産業の高度化・多様化というお話がありました。今後、特にゲーミング分野で新しい人材、新しい職種が必要になると思われるんですけども、リスクリングではないんですけども、政府が進める、そういった個人がスキルを高めて、こういった産業に就けるような、そういった手法も考えていらっしゃるのでしょうか。IR事業者にも全部お任せになってしまうのかどうかという、その点よろしく願いいたします。

(回答：講師)

私どもの方で、300業種を含めて全部やれるとは思ってないんですけども、MGMさんが、今後、彼らも人材を調達していく必要があることも考えて、各大学に呼びかけをしたり、大学で講座を開いたりしているんですね。

現実的に、相当人材を集める必要があるという中で、おそらく今、現にある会社とか組織で働いている人が、もし仮にそういう業種にチャレンジしたいというときに、まず副業禁止というのは結構ありますよね。

業種によっては、副業でも可能なのか、完璧に専業でなくちゃいけないか、パターンがいろいろあると思うんですけども、そういう意味で考えると、これだけの業種がどんどん生まれ出したときに、人材の流

動化を促進するような仕組みというのは、つくっていく必要があるのではないかと思います。

今、私どもは、そういったガイドやコンシェルジュとか、そういったサービス産業中心の協議はしているんです。ただし、今おっしゃったようなゲーミングとかになると、かなり特殊な議論になってくるので、どのような形でうまく人材を流動化していくのか。

多分、そうなってくるとMGMさんの方が育成や調達するノウハウを持っているような気がするんですね。そこは、私もまだ議論したことがないので、何とも答えようがないというか、まだ、そこまで議論を行っておりませんので、私ももうちょっと議論を深めて話せるようにいたします。

(質問者4)

全国にいろいろお客さんを集客なり、分散させるためにI Rの大きな意義があるというようなことなのですが、2ページのところの海外からのアクセスで、大型クルーズ船がたくさん入っている天保山旅客ターミナルが記述されていないのは、少しミスではないかと思います。

それから、5ページのところのノンゲーミングで収益が約100億ってあるんですが、我々100億と聞いてもピンと来ませんので、US Jと比べて、US Jの収益の何割だとか、あるいは何倍なんだというような表現にしていただけたらと思います。

それから、15ページのところの納付金の使途についてですけども、具体的に55億の経費が書かれていますが、これは100億の収納金から見たら5%程度なんで、これでは説明になってないんだろうかと。

今、説明聞いていても、MICEだとか、非常に多くのお金を使えそうところが、例えば500億とか800億を使うというようなのがあれば、皆がI Rに賛成しないのではないだろうか。やはりここは、ちゃんと正確にこの使途金を、10年は難しくても、ここ開業2、3年程度はこういうところに使って、今後の投資戦略として、どういうものを作って、先ほどのアリーナも含めて、今後の投資戦略として何をするかという辺りをもっと丁寧に書いていただけたらと思います。

(回答：職員)

天保山の旅客ターミナルの件ですけれども、こちら本日の概要版の方には細かく記載が全てないんですけれども、区域整備計画の本体の方には、天保山の客船ターミナルについての記載もしておりますので、またそちらもご参照いただけたらと思います。

収益規模につきましては、金額の方だけの記載ではございますけれども、民間企業との比較ということなどがわかりやすいのではないかとのご意見をいただきました。今後の参考にさせていただきたいと思います。

最後に納付金の使途ですけれども、こちら55億円というのは、あくまで必要経費として記載をしているものでございます。右側の方に、その他一般施策ということで、夢洲および周辺の魅力向上ですとか、観光振興、あるいは地域経済の振興、社会福祉、文化芸術など、こういったところの分野に対しても納付金を活用していくということで、具体の金額等につきましては、今後検討していくということにはなっておりますけれども、こういった分野についても、納付金を使っていくということでご理解をいただければと思います。